

平成 29 年度 学校評価実施報告書

学校名 (桂中 学校)

(1) 「確かな学力」の育成に向けて

重点目標 学ぶ意欲を高め、学力向上を目指した学習指導 学ぶことの喜びやおもしろさ・楽しさが感じられる授業を目指す	
具体的な取組 1. 昨年度に引き続き学校図書館教育の「学習センター機能」を高め、全学年各教科・領域で学校図書館を活用した授業を最低 1 回は実施する。 2. 生徒の思考・判断・表現力と課題解決型能力を身に付けさせられる授業改善のための校内研修会を実施する。 3. すべての教員に担当教科の総教 C を中心にした「指導力向上講座」や「夏季研修会」等の教科研修に年間 1 回は必ず参加することを意識付ける。 4. 学習確認プログラムの意義を十分に生徒に理解させ、計画に基づいた学習活動の重要性を学級単位で説明するとともに、学校で予習シート学習を徹底して行う。 5. 授業開始時の学習のねらいについてはほぼ定着してきているが、終了時のまとめとふりかえりがまだ不十分であるため、教員にそのことを徹底させていく。そのために職員会議や校内研修会で繰り返し意識付けをするとともに、校内巡視・授業観察を行い、現状の実態を把握し、個別に指導していく。	
(取組結果を検証する) 各種指標 ・アンケート項目の教科の授業は(全体的に)わかりやすかった。(特にわかりやすかった教科、わかりにくかった教科は。) ・学習確認プログラムの経年データ ・あなたにとって朝読書は役に立っていますか？(図書館教育推進委員会の考察) ・あなたは家庭学習を頑張っていますか？(子どもたちは家庭学習をよく行っている。)	
各種指標結果(1 回目) 授業のわかりやすさは、H28 度後期比較で約 1 %UP。GKP は前年比較(総合)でほぼ同じ。朝読書については H28 後期比較で約 5 %UP、H27 から見ると約 15 %の伸び率を見せている。図書館利用授業は現在も推進中。家庭学習について、昨年は生徒自身は「頑張っている」、保護者としては「もっとやって欲しい」という結果で、意識の差はあったが、H28 後期比較で生徒約 2 %UP。保護者評価も約 5 %UP。今回は逆転現象が起こった。	
自己評価	分析(成果と課題) 全国学力・学習状況調査や確プロの結果からも本校生徒の学力は比較的高い部類に入るが、確プロの経年変化を見ても校内の取組が一定その効果を上げていると考える。図書館教育は充実しており、生徒も慣れてきている。また、朝読書でも大きな充実感を得ている。家庭学習については、一定の効果は認められるが、全国と比較すると休日に勉強をしない生徒の率が高いのは不思議である。
	分析を踏まえた取組の改善 取組の結果、わかりやすいとする率は全体で約 91 %であるが、突出して低い教科も依然としてあり、個別の指導を必要とする。また、ねらいの明示はほぼ達成できているので、今後はまとめの時間確保に注力していきたい。また、家庭学習の中の週末課題については、与える量や内容を工夫したい。図書館教育については一定の定着と成果が表れていると考えられるが、さらに深めていき

	たい。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 授業参観などで様子を見ているが、どの学年も本当に落ち着いて学習している様子がうかがえる。学校の様子は、実際に足を運んで学校の中に入って、見て、感じてもらうのが一番正確である。うわさを信じるのではなく、自分の目で確かめるよう、学校行事に足を運ぶよう地域住民にも働きかける。	
	評価日： 10 / 26	評価者： 学校評議員
各種指標結果（2回目） 生徒評価はH28度後期比較で約2%UP。GKPは前年比較で、教科によって若干の違いはあるものの総合的にみてほぼ同じ。朝読書の効果の生徒評価は一昨年前にはやや大きな伸びを見せたが、今回のH28後期比較ではほぼ横ばいであった。図書館授業は現在も推進中。家庭学習の頑張り度は生徒評価は約68%とH28後期比較でほぼ同じ。保護者評価は約15%UP。しかし、生徒と保護者の意識の差はかなりある。		
自己評価	分析（成果と課題） 全国学力・学習状況調査や確プロの結果からも本校生徒の学力は比較的高い部類に入るが、確プロの経年変化を見ても校内の取組が一定その効果を上げていていると考える。家庭学習については、効果は認められるが、全国比で休日に勉強をしない生徒の率が高く、また、生徒自身と保護者との意識には大きな差がある。	
	分析を踏まえた取組の改善 取組の結果、わかりやすいとする率は全体で約91%であるが、突出して低い教科もあり、個別の指導を必要とする。また、ねらいの明示はほぼ達成できているので、今後はまとめの時間確保に注力していきたい。また、家庭学習の中の週末課題については、与える量や内容を工夫したい。図書館教育については一定の定着と成果が表れ始めたと考えられるがさらに深めたい。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 授業参観などで様子を見ているが、どの学年も本当に落ち着いて学習している様子がうかがえる。家庭学習の点ではどうしても親の思いが強く、子どもとのギャップが出るのだろう。今の様子を見ていると頑張っている子がほとんどだと感じる。様々なうわさを信じるのではなく、自分の目で確かめるのが一番確かである。学校行事に足を運ぶよう地域住民に働きかける。	
	評価日： 3 / 1	評価者： 学校評議員

（2）「豊かな心」の育成に向けて

重点目標 規範意識を軸として、心温かな優しい気持ちを持ち続けられるよう、日々教育活動の中で意識する。

<p>具体的な取組</p> <p>１．生徒会活動をさらに充実させる。また生徒会東北プロジェクトを継続していくことにより、支え高め合う集団づくりを学級・学年・学校単位に拡大する。また、生徒会活動を通して自治活動の浸透と拡大を図り、自ら考え行動する姿勢を養う。</p> <p><u>２．規範意識や豊かな心を育てるため、道徳の時間を中心に道徳教育を進める。道徳推進教師を中心に「考える道徳・話し合う道徳」の授業を全校的に広げていく。なお、今年度は教科化に向けて評価の研究を進める。</u></p> <p>３．生徒、教職員の４つの行動目標（あいさつ、感謝、時間、ボランティア）遵守を全員で達成する。</p> <p>４．道徳や特別活動（学級経営、生徒会活動、学校行事）の中に、意図的計画的に「記録、発表、傾聴、意見交流、まとめ」など言語活動を重視した教育活動を実施し、それを道徳の「考える道徳・話し合う道徳」に結び付けられるようにする。そして、人間としてのより良い生き方を探求する力を身につけさせる。</p>		
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業実施時間数、事後感想文や日常観察より考察 ・アンケート項目の、仲間の良いところを見つけようと努力した。仲間を大切にした。学校・学年行事は楽しかったか。楽しみにしている行事は何ですか。等 ・行事等の事後アンケートより考察。 ・道徳推進係会にて検証 		
<p>各種指標結果（１回目）</p> <p>仲間の良いところを「見つけようとした」・「大切にした」は、共に H28 後期比較でほぼ横ばい、それぞれ約 92%。約 97% と高い。全校道徳 2 回実施。時数も充足している。</p>		
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>道徳の時間も全体として意識されている。また、日頃の行動目標実践の呼びかけも定着し、効果が表れている。東北支援・ひまわりプロジェクトにも多くの生徒が参加している。</p>	
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>道徳の時間の丁寧な事前準備を心掛ける。生徒会活動・学校行事では、さまざまな考えが聞けた。一昨年のミナソラとのコラボや、昨年の熊本地震の募金活動に引き続き今年は東北支援としてひまわりプロジェクトが実施されたが、生徒会からの呼びかけに対し参加者も多かった。</p>	
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>体育大会や文化祭の発表などは目を見張るものがある。この姿は先生方の努力が形になって出てきているのだと思う。部活動を中心として、地域の清掃活動などもしてくれている。地域の大人がいつも見ているのだということを生徒に感じさせるため、積極的に声かけするよう、地域にも呼び掛けていく。</p>	
	評価日：	10 / 26
	評価者：	学校評議員
<p>各種指標結果（２回目）</p> <p>生徒評価は H28 後期比較で約 4%UP。大切にした率は約 72%。全校道徳や学年道徳も実施し、道徳自体の時数も充足している。</p>		

自己評価	分析（成果と課題） 道徳の時間も全体として意識されている。また、日頃の行動目標実践の呼びかけも定着し、効果が表れてきている。学校行事の取組を通して、集団に対する意識やその中での自己認識の高まりが感じられる。	
	分析を踏まえた取組の改善 道徳の時間の丁寧な事前準備を心掛ける。生徒会活動・学校行事では、さまざまな考えが聞けた。昨年の熊本地震募金活動の様な自発的なボランティア活動の影響もあってか、生徒会からの呼びかけなどへも、参加者は多い。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 体育大会や文化祭の発表などは目を見張るものがある。この姿は先生方の努力が形になって出てきたものだと思う。登下校も含め、みんながよく挨拶をしてくれるようになった。後ろからでも声をかけてくれる。公開授業や学校行事などに参加して中学校と交流を持つことも大切にしたい。7～8年前と比べ本当に落ち着いている。積極的に声かけするよう、地域にも呼び掛けていくが、子どもたちも挨拶してくれている。	
	評価日： 3 / 1	評価者： 学校評議員

（３）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標 学校教育目標にある心身と心の「たくましさ」を身に付けられる活動の推進	
具体的な取組 1. 運動やスポーツなどの部活動において、規範意識を高めるとともに、体力的精神的にたくましい生徒を育てるために、組織的・計画的な部活動を推進する。ただし部活動はあくまでも副次的なものであり、本校の優先順位は「学力向上」と「温かな心」の育成である。 2. 毎朝遅刻ゼロを目指して各家庭に協力を求めるとともに、「中学生版早寝・早起き・朝ごはん」を引き続き実践する。 3. 「いのち」の大切さを知り、また、いざというときに何かの役にたてる人材を育てるために、昨年度に引き続き「救命救急講習」を３年生保健授業で３時間実施し、そのうち２時間は西京消防署と協力して、すべての３年生に「救命救急講習（ＡＥＤと心肺蘇生講習）」を実施する。 4. １・１７や３・１１の節目の日に防災に関する学習を行うとともに、避難訓練や防犯訓練も実施する中で、「主体的に行動する態度」と「自分のいのちは自分で守る行動」について体験的に学習させる。 5. 夏前には「落雷」「熱中症」「食中毒」等の未然防止のため教職員はもとより、生徒にもこれらの安全意識を高めるための学習を実施する。 6. 京都はぐくみ憲章の啓発のため、学校だよりとＨＰにて広く保護者・地域住民にアピールしていく	
（取組結果を検証する）各種指標 ・日常観察より考察 ・保健室だより、保健委員会新聞の発行回数 ・各種大会の競技成績	
各種指標結果（１回目） 保健だより、保健委員会新聞ともに、月１回を基本に発行されている。月１回実施の振り返りシート	

の記入。メモリアルロードの掲示物に表れている通り、全体的に昨年同様、好成績を上げている。		
自己評価	分析（成果と課題） 生活習慣の確立と直結する「遅刻」は、ほぼ解消されている。保健衛生関係の啓発活動も行っている。部活動では、リーダー育成と情報発信を積極的に行うことで盛り上がりを見せている。また、運動部活動ガイドラインの徹底により子どもたちへの負担も軽減されてきている。	
	分析を踏まえた取組の改善 P T Aや地生連との連携の中で保護者の協力・家庭教育力を高めていく。部活動は勝利至上を求めるのではなく、人間形成・健やかな心身の成長に重きを置くことを心掛ける。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 基本的な生活習慣は家庭教育の問題である。朝、子どもをどのように送り出しているのだろうか、という声もある。保護者自身が困りをもっている場合、相談できるような地域のサポート体制が必要ではないかと思う。	
	評価日： 10 / 26	評価者： 学校評議員
各種指標結果（2回目） 遅刻者数が昨年に比べ若干増加。保健室だより、保健委員会新聞とも月1回を基本に発行。中学校駅伝の市・府・近畿大会すべて男女とも優勝や全国での男子5位入賞、女子4連覇などの掲示板や校門の掲示物による刺激は大きいと考える。		
自己評価	分析（成果と課題） 生活習慣の確立と直結する「遅刻」はほぼ解消されていたが、今年度、わずかに出てきたように思われる。保健委員会では保健衛生関係の啓発活動や冬場の換気の呼びかけなども行っており、インフルエンザの蔓延は防げたがさらに生徒たちによる取り組みに変えていきたい。部活動では、リーダー育成と顕彰・情報発信を積極的に行うことで盛り上がりを見せている。	
	分析を踏まえた取組の改善 P T Aや地生連との連携の中で保護者の協力を促し、家庭の教育力を高めていく。部活動は勝利至上を求めず、人間形成に重きを置くことを心掛けてきたが、部活動ガイドラインもあり、活動日数や時間はやや歯止めとなったが、さらなる改善に取り組みたい。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ほとんどの家庭はしっかりしているが、基本的な生活習慣は家庭教育の問題である。朝、子どもをどのように送り出しているのだろうか。保護者自身が困りをもっている場合、相談できるような地域のサポート体制が必要ではないか。	
	評価日： 3 / 1	評価者： 学校評議員

（４）学校独自の取組

<p>重点目標</p> <p>小中一貫教育の推進を目指し、桂中ブロック内４校のすべての教職員が、義務教育９年間の成長に責任をもつ</p>		
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桂中ブロック４校校長会議での内容・課題を明確にした上での小中合同授業研修会の実施 ・４校学校行事と地域行事を確認し、地域ふれあいあいコンサートの実施 ・小中一貫学校経営構想プランに基づいた教育活動の推進 		
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携主任会による考察 ・各種活動への参加数 ・ＰＴＡ役員会等の考察 ・ホームページのアクセス数 ・学校の教育方針や教育活動などが学校だより・学級通信・HP等 		
<p>各種指標結果（１回目）</p> <p>小中合同の取組の実施回数と内容。クリーンキャンペーン、落ち葉ひろいなどＰＴＡ・教職員・生徒での共同活動。学校HPへのアクセス数は、一日平均３００～４００。学校だより（天鼓の森）の配布総数１５５０。</p>		
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>小中一貫教育は、さまざまな形で体制はできており、主任クラスの連携はある程度とれている。各校の行事等の事情で実際に人的交流ができる場面は限られている。環境・美化活動では、ＰＴＡの協力を求めているが、学校規模からすると参加者は若干少ない感じであったが、今年度はＰＴＡの呼びかけもあり、少しは増えたようである。情報発信は、管理職を中心にホームページの更新・学校便り（天鼓の森）の発行など、積極的に行っている。</p>	
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>小中一貫教育に教職員の相互交流は必要だが、内容・実現方法は、さらに検討が必要。環境・美化活動は、生徒の意識を高め、学校全体として取り組めるものをつくっていく。HPや学校便りは、画像、図、テキストなどを工夫し、さらに伝わりやすいものを目指す。</p>	
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>ＰＴＡの方は緊急時対応として携帯メール配信をしているようだが、そういった情報が地域の者にも情報が入った方がよいのではないか。防災の観点からも地生連のメンバーは登録して協力体制が取れるようにしたい。地域としても青パトなどで随時重点箇所を巡回している。</p>	
	評価日： １０／２６	評価者： 学校評議員
<p>各種指標結果（２回目）</p> <p>小中合同の取組回数と内容はなかなか従来から増やすことができていない。クリーンキャンペーン、落ち葉ひろいなどの生徒との共同活動について、今年は１回が悪天候で中止となった。HPへのアクセス数は一日平均３００～４００。学校だより「天鼓の森」は配布総数１５５０。</p>		

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <p>小中一貫教育は、さまざまな形での体制はできているが、各校の行事等の事情で実際に人的交流ができる場面が少ない。環境・美化活動では、PTAの協力を得て、昨年から保護者の参加はかなり増えたが、今年度は悪天候で1回が中止となったのが残念だった。情報発信は、管理職を中心にホームページの更新・学校便り「天鼓の森」の発行など、積極的に行っている。</p>	
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>小中一貫教育に教職員の相互交流も必要だが、内容について・どのように実現するのかは各パートごとに検討が必要。環境・美化活動は、生徒の意識を高め、学校全体として取り組めるものを目指す。HPや学校便りは、画像，図，テキストなどを工夫し、さらに伝わりやすいものをめざす。</p>	
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>PTAの方は緊急時対応として携帯メール配信をしているようだが、そういった情報が地域の者にも情報が入った方がよいのではないかという意見もあるが、利用人数による費用のこともあり難しい。防災の観点からも地生連のメンバーは登録して協力体制が取れるようにしたい。青パトなどで随時重点箇所を巡回している。また学校の情報は「天鼓の森」と同様に地域も回覧等で回せるように協力する。</p>	
	評価日： 3 / 1	評価者： 学校評議員